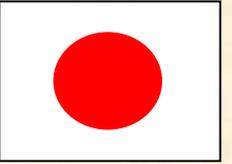




花勸進

〜花好き宮司の挑戦〜



なかがみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

君が代は 千代に八千代に

さざれ石の いわおとなりて

こけのむすまで

第31号

令和6年

12月1日発行

奈加美神社

泉佐野市中庄 834

電話 462-7080

月日が経つのは早いもので、大神様の不思議なご神縁を頂き、平成十七年に当社の宮司に就任させて頂いてより、明るく令和七年四月で満二十年を迎えることとなります。これも偏に大神様のご加護と、氏子崇敬者各位の温かいご支援によるものと心より感謝申し上げます。

思い返しますと様々な出来事がありました。就任当初より様々な課題があり、大神様にこの神社を何とかせよという使命を与えられたように受け止めておりましたので、常に神社の運営のことを考え、取り組んでまいりました。

この二十年間、社務所の改築、拝殿の改修、大宮稻荷神社の全面改築、花社不二宮の勸請、計知之神の社殿奉納による周辺整備、文化館の改修など、何かに導かれるような絶妙なタイミングで事が運びました。「何か」とは大神様の「御神徳」、氏子崇敬者の「敬神」、宮司の「思い」が重なり合ったものと確信しております。

そしてこの二十年を土台に、次の十年

或いは二十年に向かって進み行く段階となりました。諸施設は整ったものの、辺りを見渡すと経年劣化による修理箇所も散見し、新たな課題を抱えております。

しかしながら修理のたびに氏子の皆さまにご負担をお掛けするのも心苦しいことであり、神社としても体力をつけ、大きな造営以外のことは自力で修理を行うことができればと考え、長年にわたって熟慮し、令和七年より奈加美神社独自の取り組みであります「花勸進」という新しい事業を展開するべく準備を進めております。

藤の植栽につきましては就任当初から御神紋の藤巴に因んで苗木を収集し、鉢植えから育て、地植えに下ろし、コツコツとお世話を続けており、その長い取り組みが漸く日の目を見るようになってまいりました。ここ数年で藤のシーズンには大阪府内は元より、兵庫県や和歌山県など多方面から多くの方々に訪れて頂くようになり、長年温めてきた事業を始める

節目の年となりました。長期的な計画ですが、「一念岩をも通す」をモットーにこれからも積み重ねてまいりますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

花勸進 〓 奈加美神社独自の取り組み〓

「勸進」とは

社寺修復の為に浄財を募ること



「花勸進」とは

花の魅力で浄財を募り、施設の
営繕を進めること

花好き宮司の挑戦！

花の魅力で神社おこしを！と一念発起。流行りのクラウドファンディングではございませんが、無期限支援型事業の取り組みです。

花好き宮司の挑戦に皆様のご支援を
宜しくお願い申し上げます。

期間 藤・あじさいの見頃の期間

金額 一口 千円

記念品 藤・あじさいの特別御朱印

開始 令和七年四月より

左の写真は拝殿周りの土塀、瑞垣（みずがき）、神馬の基壇で、地盤沈下による崩落があり、早急に修復しなければならぬ



い喫緊の課題です。このような事業を花の魅力で解決していこうというのがこの事業の趣旨であり、目的です。



御神宝奉納

弓槍一心会



去る五月二十七日に弓槍一心会（きゅうそういつしんかい）により御神宝（ごしんぼう）のご奉納を賜りました。当会は平成十二年の上瓦屋地車新調に合わせ、有志の方々により結成された会で、かねてより神社に納めたいという大変有難いお

申し出を頂いており、関係者ご参列のもと、奉納奉告祭を斎行いたしました。

弓槍一心会奉納目録

一、十文字槍二振

槍 穂

河内守國助作

河内國平作

槍 鞘・柄

高山一之作

一、弓矢一式

柴田勘十郎作

一、御神宝収納袋一式

豊田呉服店

十文字槍の一振は江戸時代の摂津国の刀工・河内守國助の作。もう一振はその末裔である刀匠・河内國平氏により復元されたもので、一対となりました。國平氏は当代の刀匠の第一人者です。伊勢神宮の第六十一回、第六十二回式年遷宮の二度にわたり、御神宝の御太刀、御鉾などを製作され、石上神宮の七支刀も復元されております。

鞘師の高山一之氏も同様に式年遷宮の御神宝の御太刀拵を製作され、宮内庁、正

倉院、春日大社など、多数の刀剣類の拵（こしらえ）を製作されております。

弓師の柴田勘十郎氏も同様に式年遷宮の御神宝の他、鶴岡八幡宮、厳島神社の御弓を製作されております。

当社の主祭神は誉田別命（ほむたわけのみこと）で、第十五代応神天皇であり、八幡さまとも呼ばれる武運の神でもありますので、今回のご奉納により御神威も愈々発揚されることと存じます。

今後はこの御神宝を大切に保存させて頂き、後世に受け継いでまいりたいと存じます。誠に有難うございました。

誉田別命御神影 画 藤原祐寛



全国八万社の神社の中で八幡さまをお祀りする神社が一番多く、約四万社とも

言われております。総本社は大分県の宇佐神宮で、奈良時代に創建されました。そして平安時代には、京都に石清水八幡宮が創建され、国家鎮護の神として祀られ、天皇や貴族からの崇敬を受けました。そして鎌倉時代には武士にも信仰が広がり、源頼朝により鶴岡八幡宮が創建され、戦国時代から江戸時代にかけて庶民にも八幡信仰が広がり、全国各地で八幡さまがお祀りされるようになりました。

大宮稻荷神社 石玉垣ご奉納のお願い



大宮稻荷神社の本殿周りの石玉垣に数本の余地がございます。大神様に一番近い場所となりますので、ぜひご奉納賜りますようお願い申し上げます。

奉納初穂料 三十万円（彫刻費用別途）

安産戌の日まいり



奈加美神社に伝わる大絵馬
円山応挙の門弟により描かれたもので、神功皇后と、応神天皇を抱く武内宿禰（文化館に展示）

当社の主祭神は応神天皇（八幡さま）、そして配祭神には母君の神功皇后がおまつりされております。古事記によると約一八〇〇年前、神功皇后は朝鮮半島に出征した際、お腹に応神天皇を身ごもっており、その時に石を帯の中に巻き付け、帰還後に無事お産みになったことが記されています。このことから神功皇后は安産の神として崇められ、岩田帯の起源にもなったと言われております。安産祈願は一般的に妊娠五ヶ月の戌の日にお祓いを受け、岩田帯を着帯します。戌の日にお参りするのは犬が多産であり、安産であることに因みます。

目出度く子宝に恵まれた際には、戌の日の安産祈願にお参り下さい。安産御守、岩田帯と共に、普段でも簡易にお使い頂ける腹巻型の腹帯もお授けしております。

令和7年 安産戌の日表

1月	5日(日) 17日(金) 29日(水)
2月	10日(月) 22日(土)
3月	6日(木) 18日(火) 30日(日)
4月	11日(金) 23日(水)
5月	5日(月) 17日(土) 29日(木)
6月	10日(火) 22日(日)
7月	4日(金) 16日(水) 28日(月)
8月	9日(土) 21日(木)
9月	2日(火) 14日(日) 26日(金)
10月	8日(水) 20日(月)
11月	1日(土) 13日(木) 25日(火)
12月	7日(日) 19日(金) 31日(水)



ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三厄除け・車のお祓い・地鎮祭住宅入居のお祓い、各種お祓い神道家葬祭・霊祭、神棚の相談等も受付致しておりますお電話にてお問合わせ下さい

公式ホームページ開設
<http://www.nakami.org>

インスタグラム・フェイイスブック公式ページにフォローを宜しく願います

